発 言 通 告 表 （一 般 質 問）

令和５年11月定例会

順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答 弁 者
1	望月　徹（１１）	１．小中一貫教育実施と施設一体型小中一貫校に向けて 　本市は、令和６年４月より全市で小中一貫教育を実施します。本市の小中一貫教育は従来の６・３制を一体的に捉え、子供の発達段階や各学年での特徴を十分理解し、４・３・２制の３ステージに分けた教育システムへ変更するとともに、小中学校の教職員の協働による一貫性・連続性のある支援へと教育活動の質を高めることを目的としています。 　また、本市は全国でも早い段階で、施設一体型小中一貫校松野学園を令和４年４月から開校しました。新しい教育分野のよさを体現しています。 　小中一貫教育実施と施設一体型小中一貫校に向けて、懸念されることを含め、以下質問いたします。 (1) 令和６年４月からの一貫教育実施に当たり、現状と今後の取組について。 (2) 小学５年生から中学１年生までの中期第Ⅱステージを一貫教育の要の時期と位置づけているが、施設分離型での小中一貫教育で、連続性を含め、具体的な取組について。 (3) 小中一貫教育の取組として、乗り入れ授業や教科担任制を一部で導入するとあるが、具体的な取組について。 (4) 中学進学時に不登校となる児童の減少を目指しているが、施設分離型での効果をどのように描いているのか。 (5) 本市は、富士市公共建築物長寿命化指針に基づき、目標使用年数を原則65年としている。文科省の学校施設の長寿命化計画策定に係る手引では、目標耐用年数を70年から80年程度としているが、教育施設で老朽化している施設の更新について、どのような対応をしているか。 (6) 小中一貫教育は施設一体型小中一貫校へのステップと捉えるが、その道筋をどのように描いているか。	市　　長 教　育　長 及　び 担 当 部 長

順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答　弁　者
2	一条　義浩（２７）	１．共立蒲原総合病院の今後について 　平成21年設置の共立蒲原総合病院（以下、「蒲原病院」という。）運営検討委員会の答申書です。 　「組織脳（意思決定機能）が外部化されている状況もある。病院の中で何一つ決められず、外からの指令がないとなかなか動かないというような病院もある」と蒲原病院が置かれてきた立場を暗に示しています。 　蒲原病院はケアミックス病院として、急性期から回復期、慢性期までの機能を提供し、地域包括ケアシステムの一環として在宅への移行をサポートしており、富士保健医療圏においては貴重な医療資源となっています。 　一構成市としてのみならず、本市として蒲原病院をどう生かしていくかを捉え、以下２点につき伺います。 (1) 本市は今後も将来にわたり蒲原病院を支えていくことに変わりはないか。 (2) 市立中央病院と蒲原病院を参加法人とした地域医療連携推進法人の設置は、両病院はもとより本医療圏にとって有益であると考えるがいかがか。 ２．学校教育における保護者の経済的負担の軽減について 　小中学校の児童生徒の学習や学校生活に関わるものとして、制服・体操着等の衣類をはじめ、文房具、実習道具やドリル等の教材など、その種類は多岐にわたります。 　文部科学省は、保護者の経済的負担を軽減し、できる限り安価で良質な学用品を購入できるよう、各都道府県教育委員会に対して取組を促しています。 　昨今の物価高騰が大きく家計を圧迫している中、保護者負担の検証を求め、以下４点につき伺います。 (1) 公費措置と保護者負担の線引きは明確になっているか。 (2) 保護者負担軽減のための議論はなされてきたか。 (3) 指定品目は必要最低限の仕様を示した上で自由化すべきと考えるがいかがか。 (4) 保護者負担について調査し、軽減策を探る検討組織を教育委員会に設置すべきと考えるがいかがか。	市　長 教　育　長 及　び 担　当　部　長

順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答　弁　者
3	関　明美（2）	1．空き家問題から見る富士駅北口第一地区市街地再開発計画の課題と子や孫に残す価値ある「まち」について 本市では富士駅北口第一地区に再開発事業（以下、「本事業」という。）が計画されている。 本事業は駅前の古くなった複数のビルを集約し、複雑な道路を利用しやすくなるように整えるとともに、駅を降りて正面に富士山が見えるよう設計し、駅を利用する皆さんを温かく歓迎できるよう工夫されている。また、駅直結の２階部分にはイベント広場と店舗、１階部分には専門学校と店舗が計画され、18階建ての分譲マンションと駐車場を備え、駅直結の利便性の高い生活が送れるよう駅前の再開発ならではの魅力も備えている。本事業の成功を私も期待しているところである。 一方で課題もある。それは人口減少である。およそ50年後には日本の人口が今の69％になるという統計が出ており、残念ながら日本の人口が増加に転じることは期待できない。この人口減少社会において、今問題となっているのは空き家である。本市では、既に１万4000戸もの空き家があるという統計が出ており、今後も増加の一途をたどることが想定される。空き家となった住宅を所有することになった経緯は「相続」が55％を占めている。私たちの世代以上に子供世代、子供世代以上に孫世代が売りたくても売れない、貸したくても借り手がつかないなど問題がより深刻になるおそれがある。本市においては、既にこの空き家問題については様々な対策を講じ、市民の皆さんの相談に応じているところである。 本事業においては分譲マンション（130戸）が計画されているが、ここにも課題はある。 この開発には多額の税金が投入され、前述したとおりの公共貢献が期待されているが、本市の空き家事情に鑑みれば、市民、特に若い世代に対して、この事業の必要性を丁寧に説明する必要があると考える。 そこで、本事業の成功にはマンションの老朽化を想定した長期的な視点と商業施設の採算性の確保が必要と考え、以下質問します。 (1) 本事業の公共性（目的、必要性など）は何か。 (2) この事業の成果指標は何か。 (3) 分譲マンションの老朽化を見据えた管理計画についてはどのように指導しているか。 (4) 商業施設の床が埋まらない事態が将来発生した場合、市は介入するのか。	市　長 及　び 担当部長

順位	氏名（議席）	発　言　の　要　旨	答　弁　者
4	高橋　正典（２１）	１．富士川かりがね橋供用開始後の市道整備などについて 富士川かりがね橋は、今年度中の供用開始を目指し工事が進められているところである。 県道富士由比線に架橋された富士川橋は、日量２万6000台の車両が行き交う橋であり、この橋の東西で慢性的な交通渋滞を起こしていることから、この上流右岸側の富士川地区は木島地先、左岸側の岩松地区は上町地先に富士川かりがね橋が静岡県の施工により架橋されることになり、本市としてもこれに合わせ、市道の整備が粛々と進められているところである。 新橋架橋により、日量１万3000台の車両が岩松地区に出入りすることが容易に予測され、市道五味島岩本線、四ツ家交差点の改良工事が施工されている最中である。さらに、市道中島林町線に至っては、四ツ家交差点の南に当たる浦町交差点の改良工事も施工されているのである。 新橋開通後の交通体系が劇的に変わることにより、子供たちの通学路の整備をはじめ様々な視点から周辺市道を見直すべきとの思いで、以下伺う。 (1) 四ツ家交差点から市道田子浦鷹岡線を南下し、富士由比線との交差部が橋下交差点になるが、この付近の恒常的な混雑状況をどのように捉えているか伺う。 (2) 富士川かりがね橋東側の交差点から県道鷹岡柚木線を南下すると市道水神林町線が交差する。これを西進すると富士由比線に架かる富士川橋の西側交差点に出るが、この水神林町線の幅員が狭い。交通量の変化を考慮し、拡幅を検討すべきだと思うが計画について伺う。 (3) 鷹岡柚木線から岩松小学校に差しかかると分岐し、中島林町線になるが、こちら方面に流入する車両が増加することが予測される。ここは小学生の通学路になっており、道路幅員に狭隘箇所があるので、子供たちが交通事故に巻き込まれる危険性が高い。道路整備の計画はどのようになっているか伺う。 (4) 富士川かりがね橋の供用開始に合わせた市道の見直し、検討とは少々異なるが、富士川橋が架橋されたのが大正13年で、来年で100年になる。また、富士川かりがね橋が開通し、これを開通元年とするならば、これに併せ、記念式典なるものを考えてもよいのではないか。県道ゆえに静岡県で考えるべきことと捉えずに、県のほうに働きかけるなど市としてのアクションを期待するが、いかがか。	市　長 及　び 担当部長